

修士学位論文等要旨  
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis

専攻名 / Department 工学専攻  
分野名 / Division 水環境・土木工学分野  
学籍番号 / Student ID 23W3005E  
氏名 / Name 井上諒太

論文等題目 / Title

拠点内における施設の立地と居住・生活状況

論文等要旨 (1,000字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)

日本の地方都市では、市街地の拡大と、少子高齢化と人口流出による人口減少が続き、都市の低密度化が進行している。そこで、持続可能な都市構造を目指し立地適正化計画（以下、立適）が制度化された。立適では、都市に必要な機能を有する都市機能増進施設（以下、施設）を定義し、その施設を誘導する都市機能誘導区域（以下、拠点）と居住を誘導する居住誘導区域（以下、後背圏）を設定している。以上より、誘導による集約を行うためには、拠点内の施設に関する立地の実態と拠点・後背圏の人口や人口増減の関係性を示すことは重要である。また、住民は一度に用事や買い物を済ませたいという便利さを求めており、便利なまちには愛着が発生することが知られ、人口維持へと繋がると考えられる。したがって、「ついで利用」が可能なまちづくりは重要である。

本研究は、施設の立地・分布と居住や生活との関係性の把握を通じて、拠点内の施設に関する誘導計画の策定への寄与を目的に分析する。居住については、拠点・後背圏の人口や人口増減に着目する。拠点内の施設数と施設の散らばりの両方を考慮した施設の分布特性を求め説明変数とし、人口や人口増減を目的変数とした重回帰分析を行うことで、人口を維持する施設種や分布特性について考察する。生活については、住民が想定する移動として、特に一度の外出の主となる目的以外である「ついで利用」について分析する。アンケート調査から、定期的に利用する施設を抽出し、主目的に対しついで利用が想定される組み合わせに着目する。個人属性に加え、施設の立地や他の施設との関係、各種施設への代表交通手段を説明変数、ついで利用の発生を目的変数として、ロジスティック回帰分析を行い、ついで利用を促進させる要素を把握する。

分析の結果、特にこども園等や病院、図書館の施設数が多く、散らばりを持つと同時に、これらの施設が複数箇所で密集しているような分布が人口規模に有意である可能性が示された。また、立適の認知や施設が拠点内に立地していることがついで利用を促進している可能性が示された。さらに、通勤・通学に伴うついで利用や、スーパーがついで利用先として選ばれる傾向があることも示された。以上より、施設の配置計画の策定や複合施設の整備の際の参考情報になると考えられる。